

【資料】

2015年における酪農学園大学野生動物医学センター WAMCの活動報告(1)

浅川 満彦

(酪農学園大学獣医学群獣医学類 感染・病理学分野獣医寄生虫病学ユニット)

はじめに

2004年4月、野生動物医学センター(以下、WAMC)は、文部科学省ハイテクリサーチ・センター整備事業(代表 谷山弘行 教授/元学長)の一環として設立された。WAMCは野生動物、動物園水族館(以下、園館)動物、特有家畜、エキゾチック・ペットなどを対象に研究・教育活動を展開してきた。この施設は2015年で設立11周年を迎えたが、この戦略事業は2003年から助成が開始されたので12年目となった。この間、北海道獣医師会会員諸兄には、絶大なるご支援を頂いたことに深く感謝したい。さて、本資料も2015年1月から12月まで、WAMCを拠点に実施された教育・研究および普及事業などの概要を紹介する。記載項目や順序は前報^[1]に準じた。

現在、WAMCを拠点にするのは浅川が直接指導する4から6年学部生9名、大学院生(獣医学研究科博士課程2年)1名、研究生2名、学術交流協定招聘研究者1名(ベトナム・ハノイ農業大学講師)および学術振興会RONPAKUプロジェクト研究員1名の合計14名となった。現役の彼ら、あるいは卒業生が在学時代に残した仕事、そして学内外の研究者により2015年内に出版されたものは、次号掲載の活動報告(2)の末尾に「引用文献」で示した原著・短報・症例報告・解説・施設紹介・書評などがある^[1-37,39-48]。これら以外に、各種学会・研究会集会の講演、企画勉強会などの演者、題名、大会、特別講義・研修名称一覧は表1に示した。この一覧表の配列は、前報^[1]にほぼ準じ、研究(外来種[本文のみ]、在来種、飼育種)、教育・啓発の順序となっているので、本文と並行してご覧いただきたい。

研究活動

1. 外来種

新規の試みとして、静岡県内で繁殖している外来種アムールハリネズミの寄生虫検査を静岡大学・加藤英明先

生と共同研究を開始した(担当 5年・竹内萌香)。そのサンプルがWAMCに到着した際、本学と世界展開事業として交流をしているカセサート大学学生研修にも供した。次年にその分析結果を報告したい。獣医組織解剖学の竹花一成教授から、本学周辺の地元で有害捕獲されたアライグマのサンプルについて、前肢の提供を依頼された。「洗う」という行動を免疫組織化学的に検証するということであった。ユニークな試みであり、快諾、同ゼミの課題研究で完了したようである(千葉友章「アライグマ(*Procyon lotor*) 掌側面における感覚受容の部位差」)。

2. 在来種

本ゼミでは、最近、エキゾチック・ペット専門病院へ就職するものが増えた。そのため、野生爬虫類を対象にした検査も増加した。今年は小樽および札幌市内で捕獲され、高等学校の教材として飼育されていたヘビ類に寄生していた*Ophidilaelaps*属ダニ類の報告が刊行された^[44]。担当は6年・田中祥菜さんで、これを機に、卒後も修行する予定のエキゾチックペット専門病院で得られた知見の報告を続けてもらいたい。なお、爬虫類担当は田中さんの宿題ともども4年・吉田圭太君^[45]が継承したので、しばらくは安泰である。

研究生として登録される吉野智生氏(釧路動物園)が在学時代の2004年、石狩湾で船舶座礁による油汚染が起き、多くの海鳥類が犠牲になった。その剖検と蠕虫記録が本学査読誌Research of One Health上で刊行された^[48]。刊行されたばかりの学術誌であるが、これまでのところ、英語論文での寄稿はWAMCからだけなので、今後も盛り立てたい。なお、彼はアカエリカイツブリとタンチョウの報告も刊行した^[46,47]。油汚染で犠牲になる海鳥類の主体がウミスズメ科である。北海道では稀少種も多いので、保全対象となるものが少なくない。そこで、5年の高野結衣さんがこのグループの鳥類から記録された病原体解説を訳出、判り易く解説してくれた^[38]。高野さ

んは、昨年の報告^[1]で飼育エミュー類の調査で紹介したが、蠕虫が得られず、次善の策として、北海道に関わるものとして担当してもらった。現在は、エキノコックス関連でモンゴル産オオカミ類調査の統報も担当してもらっている(表1)。これも昨年の報告^[1]で言及したが、長野県飯田市のイワツバメ大量死についても、本学病理学の岡本 実准教授、国立研究開発法人国立環境研究所の大沼 学主任研究員の支援を受け刊行された^[39]。野鳥の大量死についての相談もWAMCに寄せられることがあるが、これを単なる「まか不思議な現象」に終わらせるようなことをしないためにも、何年かかろうとも刊行を継続したい。大学院生の水主川剛賢君(神戸どうぶつ王国に在職)は飼育鳥類の健康管理・防疫を兼ね、国立環境研究所の大沼主任研究員の指導により博士論文研究「日本国内に鳥インフルエンザウイルスを持ち込んでいる鳥種」に取り組んでおり、現在、投稿を目指し苦悶している。



写真1. 12月に札幌市屯田で救護されたトビのケアをするゼミ生達 (WAMC入院室、2015年12月)

WAMCでは本来業務である野生動物医学の研究・教育に支障のない限り、市民や自治体から傷病鳥獣を積極的に引き受けている。戦略事業が採択された2003年以降、多くの救護事例が溜まっていたが、これを最終的に6年・古瀬歩美さんがまとめ^[31]、国際学会でも紹介された(表1)。野生復帰は約30%であったが、この数字の多寡はともかく、いかに有効な教育・啓発の手段にするのが今後の課題となろう。なお、救護の様子などは本学広報課によりフェースブックで情報開示されている。写真1はその一つで、12月に札幌市屯田で救護されたトビである。右側の学生は、将来、鳥類臨床医を目指して4年・金谷麻里杏さんで^[35]、WAMCでは彼女のような明確な目標を持った方が所属するのも特色である。今年、WAMCに併設される専用放鳥舎を改修した(屋根と単管により組まれたケージ枠; 写真2)。大きな出費ではあったが、このような施設は救護活動では必須なので仕方がない。

昨年の報告^[1]で紹介した学振研究員カルチカ・デヴィさんは、今年、彼女の博士号申請主論文「インドネシア産ネズミ亜科動物(齧歯目ネズミ科)の寄生線虫における分類および動物相に関する研究 - 特に蟯虫類 *Syphacia* 属の生物地理について -」(英文)が本学獣医学研究科に受理され、9月17日、竹花一成学長から博士号の証書が授与された。彼女は幼少時に小児麻痺に罹患し、その後遺症が残る。しかし、そのような障壁も、彼女の研究への意志は壊せなかったようだ。現在でも、学位論文の未刊行部分の投稿が続き、先日も *Maxomys* 属のネズミ科動物から検出された蟯虫類の新種記載 *Syphacia* (*Syphacia*) *maxomyo* がJVMSに掲載された^[30]。日本産野ネズミ類の線虫相について生物地理を著者はライフワークとして研究をしてきた。そのため、直接、東アジア



写真2. WAMC併設の専用放鳥舎屋根およびケージ枠の改修(左)と新設(右)(工期2015年9月から11月)

アや欧州、せいぜい北米大陸など全北区は自身のフィールドである。しかし、東南アジアはそれほど関連しないと思いつけていたが、結局、彼女の学位論文では、日本列島ともつながった。寄生虫に国境はないということか。1980年代前半、著者は学部3、4年生頃のあたりに、このライフワークを始めたが、その頃の宿題を、今年、本学紀要に刊行されたが^[13]、これを契機にこの想いを一層強めた。ただ、研究材料としての野ネズミ類は地味なのか、これまでのWAMCのゼミ生では、小哺乳類を積極的に扱いたいという希望者はいなかった。しかし、4年生の垣内京香さんは、自身がハムスターなどを長年飼育してきたことから、課題研究でもこれを扱いたいという^[34]。そこで、国立環境科学研究所の大沼 学主任研究員との共同研究で、福島県で捕獲された野ネズミ類の蠕虫相とについて研究を展開する予定である。このほかの哺乳類としては、紀伊半島大台ヶ原産ニホンジカの日本脳炎ウイルス抗体保有状況が琉球大学の斉藤美加先生により刊行された^[37]。

3. 飼育種

2014年に採択された文科省科研費基盤研究C

(26460513)「動物園水族館動物に密かに蔓延する多様な寄生虫病の現状把握とその保全医学的対応」が、今年2年目となり、いくつかの成果を上げつつある。広島市安佐動物園のオオサンショウウオの保全繁殖施設は、本種の継続的な飼育下繁殖に成功し、谷水と井戸水を利用して数百個体を保持している。6年の田中さんは同園と共同でこれらの糞便や斃死標本など用い、内外寄生虫の保有状況の調査をし(写真3)、その中間報告は学会報告された(表1)。来年までに公表を目指すので、次年の報告を期待したい。

田中さんは非常に生産的な学生で、大阪・海遊館のラッコおよびジンベイザメの症例報告を2本刊行した^[42,43]。以前から、この水族館からはWAMCに多くの症例を頂いており、彼女の卒業で後継者が心配されたが、5年の城戸美紅さんがこれを継承された。同館ではサメ類の飼育に力を入れており、今年はサメ類の特別展も行われ(写真4左)、城戸さんが同定した寄生虫も展示された(写真4右)。

動物園との共同研究も結果が得られつつある。これらの中にはWAMCの研究生である吉野氏が所属する釧路



写真3. 広島市安佐動物園オオサンショウウオ保全繁殖施設の個体(左)とその飼育個体から得られたアタマビル *Hemiclepsis marginata* (Bar=2 mm)

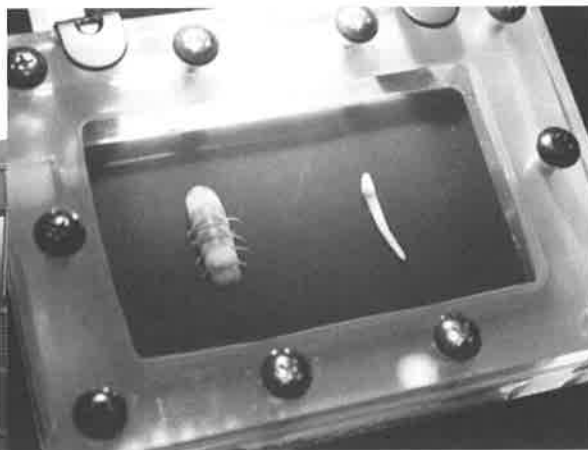


写真4. 大阪・海遊館サメ特別展入口(左)とWAMCで鑑定依頼された等脚類・吸虫標本

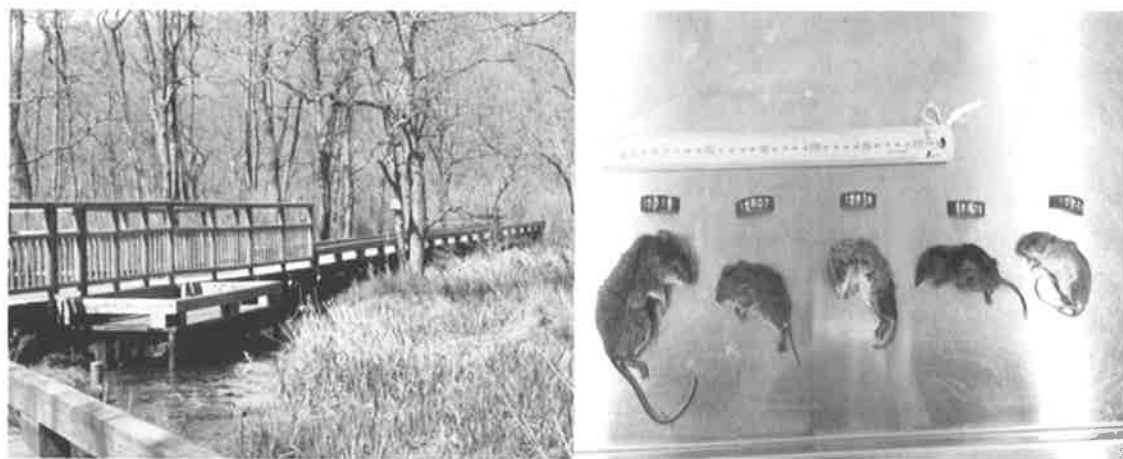


写真5. 釧路市動物園散策路（左）周辺で捕獲された小哺乳類（右）

市動物園と外平友佳理先生が所属する到津の森公園のものも含まれる（表1）。特に、後者については本学群の鈴木一由教授、佐野忠士准教授および林英明准教授が中心的に支援をしている。前者は6年の佐渡晃浩君が前面に立ち、進めている。豊かな自然環境に隣接した場所に設置される北海道各地の動物園には、周辺から野生哺乳類が恒常的に侵入し、防疫上問題視されている。そのため野生動物の有害捕獲が行われるが、捕獲後にこれら動物の寄生虫保有状況調査が行われている例は少ない。そこで、釧路市動物園内で野ネズミ類を捕獲し、蠕虫調査を実施した（写真5）。前に著者のライフワークについて披瀝したが、ここに来て、繋がった思いがした。この結果は投稿準備中であるので、そちらに譲りたい。

自然環境に恵まれ、露天の大規模な展示形態には「サファリパーク」がある。立地条件（自然環境）を有効に利用し、飼育動物・訪問客双方にプラスとなる人気施設

である一方、野ノズミ類やノネコなどの哺乳類、スズメやカラス威などの鳥類、あるいは昆虫やダニなどの無脊椎動物の侵入機会は、ケージによる飼育より格段に高いこと否めない。そのため、これら侵入動物を中間宿主とする間接発育型寄生虫の感染増加を招く傾向にあるという仮説を設定し、4年前、群馬県の施設をモデルとして検証を試みたことがある。この結果が、ようやく、橋本千尋さん（WAMC 7期）により学術誌に掲載された^[32]。彼女は、今年、伴侶動物臨床の修行期間（3年間）を経たのち、山口県の宇部市常盤動物園に常勤の獣医師として活躍している。卒業時の宣言通りでありが、同じく、著者と約束した通り、卒論データは公表してもらった。これで野生動物医学会の認定専門医受験資格である筆頭2本中、一つをクリアした。もう一本出して、専門医に挑戦して欲しい。

表1. WAMCで得られた試料/情報などを基盤とした研究活動のうち、2015年内（2015年1月～12月末日）実施の各種学会学術集会・研究会における口頭/ポスター発表一覧

1. 在来爬虫類・鳥類

a. 爬虫類

小西奈菜子、鈴木一由、能田 淳、柳澤牧央、外平友佳理、世良耕一郎、横田 博、浅川満彦：沖縄の野生および飼育ウミガメの血液中微量元素動態。第21回日本野生動物医学会江別大会、酪農学園大学、7月30日～8月2日

佐々木春香、鈴木一由、能田 淳、土谷正和、外平友佳理、亀田和成、浅川満彦：八重山諸島に棲息するアオウミガメのエンドトキシン活性値。第21回日本野生動物医学会江別大会、酪農学園大学、7月30日～8月2日

b. 鳥類

竹内萌香、水主川剛賢、岡本 実、大沼 学、浅川満彦：長野県飯田市浄水場汚泥処理施設で大量死したイワツバメの病理学および寄生虫学的検査。第21回日本野生動物医学会江別大会、酪農学園大学、7月30日～8月2日

浅川満彦：救護実習・遺体を使つての保定・経口投与、接骨術、計測実習。野生動物リハビリテーター協会初級認定講座、酪農学園大学研修館/野生動物医学センター、6月27～28日、

竹内萌香、水主川剛賢、岡本 実、大沼 学、浅川満彦：身近な野鳥の大量死分析－長野県飯田市イワツバメの事例から。第19回鳥類臨床研究大会、東京、10月11日

2. 在来哺乳類

a. サル目

浅川満彦：寄生虫病・感染症疫学。第158回日本獣医学会公衆衛生学/野生動物学分会合同シンポジウム「ニホンザル関係」、北里大学、9月7日

b. ネズミ目

浅川満彦：食品流通過程で果たして野ネズミが紛れ込むのか。第14回「野生動物と交通」研究発表会。札幌コンベンションセンター、2月20日
Dewi, K., Hasegawa, H., Sato, A., Asakawa, M.: Biogeography of *Syphacia* spp. in Indonesia based on morphological and molecular characteristics. 第84回日本寄生虫学会大会、杏林大学三鷹キャンパス、3月21日-22日

Dewi, K., 浅川満彦、長谷川英男：インドネシア産ネズミ（齧歯目：ネズミ科）に寄生する蟻虫類 *Syphacia* 属の動物地理学的な特徴。日本生物地理学会第70回年次大会、東京、4月12日

Dewi, K., 長谷川英男、浅川満彦：インドネシア産ネズミ亜科動物における寄生線虫相概要。第21回日本野生動物医学学会江別大会、酪農学園大学、7月30日-8月2日

古瀬歩美、高田靖司、浅川満彦：瀬戸内海の島に生息するアカネズミの寄生蟻虫調査。第21回日本野生動物医学学会江別大会、酪農学園大学、7月30日-8月2日

浅川満彦、古瀬歩美、高田靖司：島に隔離された野ネズミ類の線虫相-瀬戸内海での事例。第158回日本獣医学会、北里大学、9月7日

c. ウシ目

浅川満彦：最近鑑定依頼のあったニホンジカ *Cervus nippon* からの外部寄生虫。第67回日本衛生動物学会大会、金沢大学宝町キャンパス、3月27日-29日

d. クジラ目

浅川満彦：鯨類の外部寄生虫について。第28回水生昆虫研究会、札幌、3月7日

川田大紀、松田純佳、松石 隆、中山翔太、石塚真由美、浅川満彦、能田 淳：北海道沿岸にストランディングした鯨類の臓器における金属濃度の測定とその比較検討。第21回日本野生動物医学学会江別大会、酪農学園大学、7月30日-8月2日。

e. ネコ目

高野結衣、Gantigmaa Chuluunbaatar, Battulga Sumiya, Abmed Davaajav, Anu Davaasuren, 岡本宗裕、柳田哲矢、伊藤 亮、浅川満彦：2013年に実施されたモンゴル国の野生イヌ科動物の寄生蟻虫相調査。第21回日本野生動物医学学会江別大会、酪農学園大学、7月30日-8月2日

f. 複合動物群

浅川満彦、外平友佳理：人間生活空間に侵入したタイリクヤチネズミとエゾトガリネズミは衛生動物と見なしえるか。日本生態学会2014（平成26）年度北海道地区会大会、北海道大学、2月20日

Osa, Y., Fujii, K., Okoshi, A., Endoh, D., Kanek, M., Asakawa, M.: Estimation and prevention techniques of transmission risk of avian infection disease in livestock farms. The 5th International Wildlife Management Congress, Sapporo, Japan, July 26-30

佐渡晃浩、吉野智生、生駒 忍、藤本 智、浅川満彦：動物園内で有害捕獲された野生哺乳類の寄生虫保有状況。第21回日本野生動物医学学会江別大会、酪農学園大学、7月30日-8月2日

浅川満彦：ヒトの生活空間内で見出された野生小哺乳類の二例について。第61回日本寄生虫学会・日本衛生動物学会北日本支部合同大会、帯広畜産大学、10月10日

3. 飼育種

a. 魚類および両生・爬虫類

浅川満彦：爬虫類標本を用いた愛護および保全医学に関する啓発・教育活動。北海道環境教育研究会研究大会、北海道教育大学札幌駅前サテライト、3月8日

田中祥菜、田口勇輝、野田亜矢子、浅川満彦：動物園飼育下のオオサンショウウオ (*Andrias japonicus*) における内部寄生虫保有状況。第21回日本野生動物医学学会江別大会、酪農学園大学、7月30日-8月2日

田中祥菜、田口勇輝、野々上範之、野田亜矢子、浅川満彦：動物園飼育下オオサンショウウオ (*Andrias japonicus*) の健康管理に主眼を置いた寄生虫検査。日本オオサンショウウオの会研究会、奈良、10月3-4日

城戸美紅、田中祥菜、伊東隆臣、浅川満彦：水族館飼育板鰓類に認められた寄生虫。第21回日本野生動物医学学会江別大会、酪農学園大学、7月30日-8月2日

b. 鳥類

水主川剛賢・吉野智生・浅川満彦：動物園飼育鳥で注目される寄生虫症。第27回北海道鳥類学セミナー、北海道大学、2月28日-3月1日

Okumura, C., Sado, Asakawa, M., Mandenhall, I.: A case of myocardial microsporidiosis in Australian Crested Pigeon *Ocyphaps lophotes* at the Jurong Bird Park, Singapore. The 21st Annual Meeting of Japanese Society of Zoo and Wildlife Medicine, Rakuno Gakuen University, Japan, between Jul. 30 and Aug. 2

c. 哺乳類

浅川満彦：教育講演エキゾチック・ペット等の寄生虫病（原虫・吸虫・糸虫・鉤頭虫編）。第11回獣医内科アカデミー横浜大会、パシフィコ横浜、2月22日

浅川満彦：教育講演エキゾチック・ペット等の寄生虫病（線虫・節足動物編、まとめ）。第11回獣医内科アカデミー横浜大会、パシフィコ横浜、2月22日

浅川満彦：我が国の動物園水族館展示哺乳類2種で得られたハイダニ科ダニ類。第84回日本寄生虫学会大会、杏林大学三鷹キャンパス、3月21-22日

亀山祐一、佐伯彩可、浅川満彦、伊東拓也、沖本康平、下井 岳：北海道網走市におけるオオアシトガリネズミ *Sorex unguiculatus* の寄生虫相と駆虫の試み。第21回日本野生動物医学学会江別大会、酪農学園大学、7月30日-8月2日

外平友佳理、佐々木春香、鈴木一由、能田 淳、佐野忠士、土谷正和、横田 博、浅川満彦：カンガルー病罹患カンガルーの血漿エンドトキシン活性値。第21回日本野生動物医学学会江別大会、酪農学園大学、7月30日－8月2日

佐々木春香、外平友佳理、鈴木一由、佐藤綾乃、佐野忠士、土谷正和、横田 博、浅川満彦：カンガルー病 (Lumpy Jaw Disease) を罹患した飼育下オオカンガルーの血漿エンドトキシン活性値。第66回北海道獣医師大会・平成27年北海道地区三学会、9月11－12日、酪農学園大学

4. その他 (解説・総説・保全教育・啓発などの関連)

a. 野生動物医学および疫学教育

Asakawa, M.: Zoo and wild animal medicine in Japan with special reference to parasitic diseases. Revitalization of the academic exchange program between University of Eastern Philippines and Rakuno Gakuen University, Rakuno Gakuen Univ., Mar. 2.

Asakawa, M.: Educational and research activities performed by Wild Animal Medical Center, Rakuno Gakuen University. Pre-congress Workshop of the 8th International Annual Meeting of Asian Society of Conservation Medicine (ASCM) at University of Veterinary Science, Yezin, Nay Pyi Taw, Myanmar, Oct. 15

Asakawa, M.: Special lectures and practices of parasitology/wild animal medicine for Kon Kaen University. ASEAN Cooperative Veterinary Education Program 2015, Rakuno Gakuen Univ., Mar. 2

浅川満彦：野生動物の生理・生体、感染症について。日本野生動物医学学会SSC基礎(I) 座学コース「野生動物入門セミナー」、東京スポーツ文化館、8月31日－9月1日

浅川満彦、WAMC/SSC開催委員会：WAMC/SSC、酪農学園大学、9月17日－20日

Asakawa, M., his students: Wild animal medical short course for students of Kasetsart University, Thailand, Advanced Hygiene and Environmental Sciences, Collaboration of Veterinary Education between Japan and Thailand (Sekai-Tenkai-Ryoku), Rakuno Gakuen Univ., Sep. 16-17 / Nov. 2-3

佐々木基樹、遠藤秀紀、浅川満彦 (コーディネーター)：学術・教育委員会主催自由集会「研究する動物園」。第21回日本野生動物医学学会江別大会、酪農学園大学、7月30日－8月2日

Asakawa, M., his students: Wildlife medical lecture titled "Ecotourism vs Wildlife-Case Report on Conservation Medical Assessment in Hokkaido, Japan", and drill of wildlife postmortem and making/blowing immobilizing dart for students of Univ. Findlay, USA, organized by EX center, Rakuno Gakuen Univ., Jun. 05

浅川満彦：野生動物医学学会大会で紹介された寄生虫病に関する事例概要－園現場ではどのような疾病が問題視されるのか。日本獣医臨床寄生虫研究会第31回例会。東京大学、12月19日

Furuse, A., Asakawa, M.: Medical care for injured wild animals performed by the Wild Animal Medical Center of Rakuno Gakuen University and its application for educational activities. The 5th International Wildlife Management Congress, Sapporo, Japan, July 26-30

Asakawa, M., Furuse, A., Kakogawa, M., Yoshino, T., Sotohira, Y., Sano, T., Suzuki, K.: An overview on medical care for injured free-ranging avian and mammalian species performed by the Wild Animal Medical Center of Rakuno Gakuen University between 2003 and 2014. The 8th International Annual Meeting of Asian Society of Conservation Medicine (ASCM) in Myanmar, Oct. 17-18

浅川満彦、そのゼミ生：救護活動に必要な鳥類基礎知識－講義と実習。野生動物リハビリテーター協会会員交流事業、酪農学園大学研修館/野生動物医学センター、4月18日

b. WAMCの活動報告・施設紹介・特別研修

浅川満彦、佐野忠士、鈴木一由、遠藤大二：2015年における酪農学園大学野生動物医学センターWAMCの活動報告。第66回北海道獣医師大会・平成27年北海道地区三学会、酪農学園大学、9月11－12日

浅川満彦：附属高校内に設置された「獣医学コース」での野生動物医学の初歩に関する授業事例。第65回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会、山形大学、8月27日－28日

浅川満彦：本学類における実学教育とは。2015年度酪農学園大学獣医学群夏季談話会、新札幌 (ホテル エミシア)、8月11日

c. 大学低学年・高校生および市民への啓発

浅川満彦：獣医動物学の創成 (仮題)。北海道自然史研究会2014年度大会、帯広百年記念館、3月1日

浅川満彦、そのゼミ生：酪農学園大学EXセンター主催市民公開講座「獣医の卵たちによる勉強会－爬虫類・鳥類を知ろう (前後編)」、酪農学園大学研修館、12月5、6日

浅川満彦：獣医さんはいかにして野生動物を救うのか。株式会社フロムページ主催夢ナビライブ in Tokyo－大学進学のための学問発見イベント、東京ビッグサイト、7月11日

浅川満彦：獣医の卵達と一緒に、野生動物保護とその病気の関係について考えよう！ (独)日本学術振興会ひらめき☆ときめきサイエンス事業、酪農学園大学、8月4－5日

浅川満彦：野生動物医学入門野外研修、とわの森三愛高等学校プレゼミ、酪農学園大学野生動物医学センター、5月20日

浅川満彦：「獣医学領域の研究とは」および「肺の寄生虫」、とわの森三愛高等学校獣医学入門、とわの森三愛高等学校、6月9日および10月9日

浅川満彦、そのゼミ生：WAMC主催公開授業「獣医の卵たちによる勉強会－哺乳類・爬虫類を知ろう」。酪農学園大学研修館、6月8日－7月27日

浅川満彦：夜間自然観察 (ナイトハイク)。2015年度酪農学園大学エクステンションセンター主催「ひらめき教室」、酪農学園大学、8月10日

浅川満彦：授業体験「野生動物保護とその病気の関係について考えよう」。酪農学園大学広報課主催、札幌市立平岡の中学校総合学習対応、酪農学園大学研修館、10月21日/11月18日。

浅川満彦：獣医師はいかにして野生動物を救うのか。帯広農業高等学校出張セミナー、帯広農業高等学校高校、11月4日